

試験場の研究部紹介

野菜花き試験場 花き部

長野県の花き生産は、夏季冷涼な立地環境を活かした夏秋季出荷を主体としていますが、気候変動の顕在化等により、計画的・安定的な生産が困難になっています。そこで、野菜花き試験場 花き部では、県内で栽培されている主要な切り花類（カーネーション、トルコギキョウ、アルストロメリア、キク、ダリア等）や鉢花（シクラメン）を中心に、開花調節技術を柱とする計画安定生産技術および生産性向上に向けた栽培技術の開発・確立に取り組んでいます。

主な技術開発の状況について、以下に紹介します。

【赤色 LED 利用による開花調節技術・品質向上技術】

小ギク、アスター、ダリアについて省電力で耐用年数の長い赤色 LED を利用した電照栽培の試験を行っています。需要期出荷に向け、小ギクでは 8 月盆出荷の電照栽培に適する品種や消灯時期について、アスターでは 9 月彼岸出荷を行うための電照方法について検討しています。また、ダリアでは露芯花を防止しつつ収量が減少しないような電照方法について試験を行っています。



赤色 LED 照明による小ギクの電照栽培

【カーネーションの生産性向上技術】



カーネーションの密閉トンネルを
活用した無加温越冬試験

県内のカーネーションは主に夏秋季 2 回切り作型で生産されていますが、1 株当たりの切り花本数が少ないことや高温期を経過する 2 番花の品質低下が問題となっています。品質や収量の向上を図るため、優良品種の選定と各品種の特性に合わせた作型、仕立て方法を検討するとともに換気や遮光方法などハウス高温対策の取り組みを行っています。併せて近年の二酸化炭素排出削減や燃油高騰の問題に対応するため、化石燃料を使用しない越冬作型の開発を行っています。

【トルコギキョウの生産性向上技術】

気候変動等により開花期の変動、切り花品質の低下等が顕著になってきています。そこで、計画的かつ安定的な生産技術の開発を目指して、日平均気温管理による開花調節技術の開発や生理障害軽減技術の開発について検討を進めています。

トルコギキョウに対する日没後4時間冷房の効果

左・中央：日没後4時間冷房区、右：無処理

(左：15℃、中央：18℃)



【アルストロメリアの燃油消費量削減に向けた栽培技術の開発】



アルストロメリア有望品種の選定

アルストロメリア栽培において、近年の燃油価格の高騰が大きな経営的な負担となっています。そのため、カーネーション等で実証されてきた日没後の変温管理技術の開発を目指します。

また、現在は夏秋切り作型が県内で普及しつつあります。生産者の経営安定には生産性の高い品種の導入が重要であることから、有望品種の特性を把握するための試験を進めています。

【シクラメンの省力栽培技術】



緩効性肥料を利用したシクラメンの省力栽培技術

育苗から出荷までの期間が長く、また栽培管理に多くの労力を要し、品質の安定化が求められている品目です。近年、出荷鉢の小型化により面積当たりの鉢数が増え肥培管理の省力化が求められています。そこで、鉢サイズに応じた緩効性肥料を用いた省力栽培技術の開発を進めています。

また、県内で広く普及している培土は供給が不安定になり、価格が高騰してきています。安定して栽培に用いることができる、新たな配合の培土における栽培技術の開発を目指します。

電話番号

0263-52-1148